

2017年(平成29年)
3月17日
金曜日



地域ケアの仲間集い21年

毎年2月11日には、自治医科大学で「在宅ケアネットワーク栃木」という在宅ケア推進の市民フォーラムを開催している。今年で21年目を迎えた。最近では、栃木県内外から5000人を超える参加があり、年に一度の再会を楽しみにしている人たちが

太田秀樹 10

人生支える在宅医療

もいる。この活動のきっかけは、なんと1995年にさかのぼる。

大病院志向が一層高まりつつある中で、そして、介護保険制度のない時代に、温かな家族の介護に頼って、自宅での大往生をかなえられる高齢者がいた。

最期を見届けるために熱心に足を運ぶ開業医の存在があったからである。当時、往診は診療所経営の足を引く張る時代ではあったが、矜持として人生を支える医療を提供していた医師たちが、少数派ながら県内にいた。

そこで、栃木県の在宅ケアをもっと推進させようと、阿部敏夫先生(大田原)、趙達来先生(真岡)、高橋昭彦先生(宇都宮)、関隆郎先生(足利)、奥

野正孝先生(自治医大)らが一堂に会した。地域ケアの仲間が顔の見える関係性を築き、望めば、誰でもどこでも在宅ケアを受けられるようにと壮大な目標を掲げたのである。「在宅ケアネットワーク栃木」の誕生だ。

小さきものの集いではあったが「継続は力」と信念を貫いた。財政的支援のない手弁当での市民目線の活動がいつのまにか国家の課題となり、在宅ケアは行政が中心になって牽引する時代が到来した。振り返ると、

おおた・ひでき 1953年、奈良市生まれ。自治医大大学院修了。92年「おやま城北クリニック」開業。現在は医療法人アスムス理事長として在宅医療を推進。



とちぎの風

ゆっくりではあるが、こんなにも大きく変わったのだなと感慨を深めている。(次回24日)